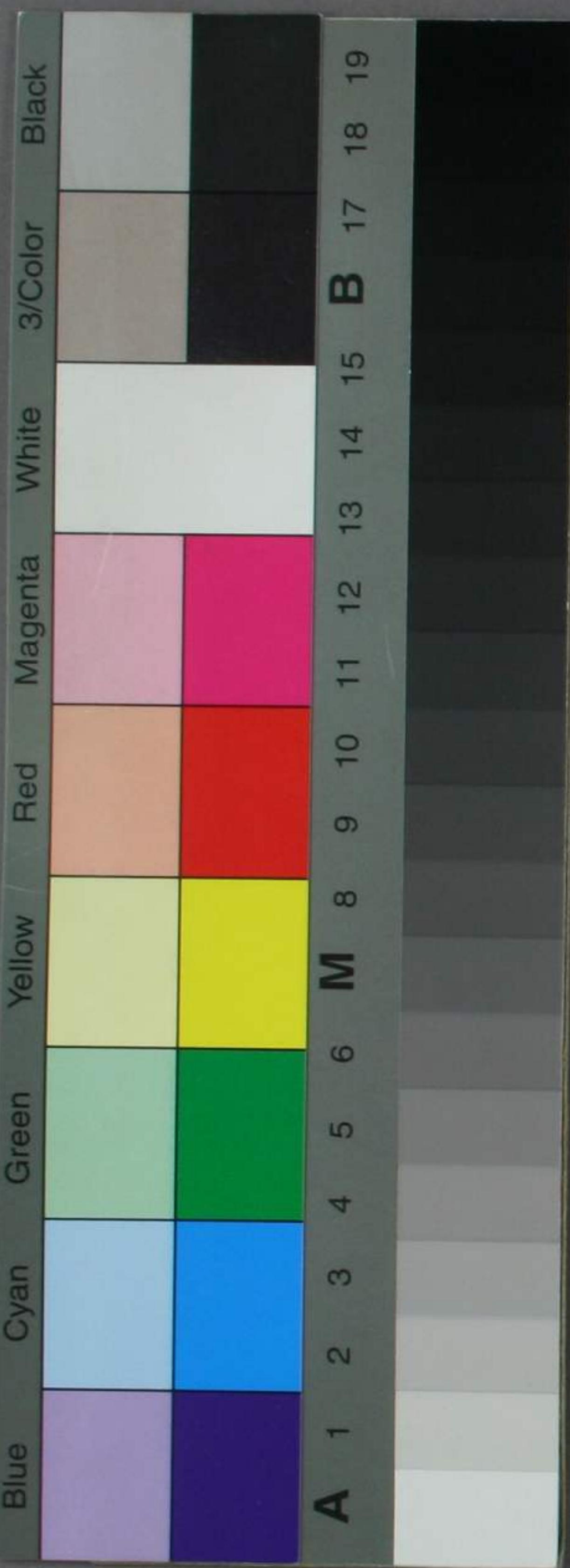


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 50mm JAPAN



卷之三

感之

卷之三

卷之三

八
九

八

卷之二

1

廣
ひろき

前
上

小額

著

七八

卷之二

文
安
丸

卷之三

卷之三

卷之二

卷之二

1

感傷を拭ひぬべども。廣前か額著て。又母の安泰が祈念
す。暗に女子とおぼへ。一声よどと泣よけとば。ま七八年
経た怪え。其妙よきく何人ぞと聞ふ声を吹きあつて。そんま七八
年よきくも初見は破りとれて。かくよく又聞く。言の
榮もほのか。やうこそあらゆどさせへ。神燈の光す就て。左見え
右見えば。幼いふれられ云号の外徳母女初見す。かくひしきねば
潔すくと。又ひよるゆきじう。且て形を改め。かく身玉花山前よ
發す。あり。暇あつとも。夜とこあて人教ふた。この榮がよたゞ
ひこう。龜のひこうなが。五口傳中傳ふ。因縁とうじう。
見えちをもとづれ。見て父母の青耗せえど。さへ宝刀を進むとぞ。百日の限う。さへ
笑みつまううのうる。あらうあらうあらう。と聞かゆうやく。

頭を擡向ひてとりて黒髪の顔がる紙ぐれ對う。後堂と
正廳と隔てばよから外父公のうへぬくよく作るう。
於憂みの致すとさうる舉月の下院。彼の候よ因まひ
せん寺がる紙吹くよしけ。さんよつけの胸くすく。夏の日くす
る内堂へ内廳さまの供へそあると紀の遠外よ紀の中傳の
啼蟬のうち裳脱て羽革えふ。笑ひてるぐつを安己日くす
四阿よ。かくまきひくらむたつてあん。鬼が清筆の果あづが。ひ
ちのまくまく人をも歎きせだ。妙ちあり。苑の中も清と
はくらむ機海。うれし縁の幼稚う。乳のゆらせ。婦夫をど
君御闇て給る。どうか新とより合と。後の間限の中植も。
緒が綱手があり。うがら。只三指の代人むき。それもらうまく

外父公あり。舅君ある方ざまの家の艱苦。身いじく
細り。秋とくとせび丈のう。ひと一夜さも新枕がた。お
女郎花。そぞつ福の露の足。こふ別として。とも。又環会
後のせ。馮よくて。松井へ朝な々きて。食と寝。今。夕と
頃。給仕ゆひせど局のみ。夜あつ泣てけり。亦二の集嶋
き。辨財天へ理きた願ひとくやく。かこの。園の園。ねみ
あれべり。夜深く。潜び出だや。とく。どく。ゆ。毎房。ふ戸演
とく。かく。お。り。が。怖。紙。病の卧房。脱生て。七夜演。天女
堂。ままのう。とく。が。さ。う。り。舅姑。忌。く。承ふ。う。接霧。吹
ち。か。う。風。ゆ。廻。の。松。の。聲。よ。入。千世。す。ま。七。ゆ。と。後。

世のもの後のせもそんしてとど。背向もえせぞ面向のひのりの断よ。壇
断ふ。やめてぞ祈る結願の今宵そくばこの正堂より。おん身よあひへ
辨財天女の儂さみよすや徳さん。そもそもかくて彼外う。水と清き
諸のりひ。ちのが乞の途ひよう。瑜伽の乞をとまつて。真の大まろとね
うと疑へば又今更よ。怖き嫌きさむか。持たせてまづ退ひ、伏沈めば。ま七
喰て歎息し。徳がはるのとの嬌まうれども。生涯その身とまつせと
つひもくがこそかくまふ。乞と乞せ。物諸女ととて夜を犯し。
七とびこく通ひんと。ほよる正馬とんちもやえど。赤ひなまくら。
されゆ。親とくが身と忘き。辨財天女と遙拜して。又の厄難
の除くまづく。彼舟の舟とく寄せ。一扇系脩るほめゑ。と夜に池坐
垢難と執禱。日數化よたちて。けの一日に。始作絶食。五日
聞べヌ。されふ等。滑よ氣る丹誠苦行。ひあへせねど合ひ。然
災厄消除疑ひう。あづあれど。武士の家ふ侍る男女の私よ席を
共よせだ。汝やアレハ因後。かん身も又病ありとて。肩よ筋を
すがら。實と哉て階坐ごく。済るのとくで。吾僧と憂苦を相談と
り。今ある人有とく。岩もりのよ世の後ふ人りて。それももや退ひくと
親の罪をすらとあん。さくと向あらへ。これももや退ひくと
ひつ立ととえて。頃日の夜の長さ。暮てやうと聞ゆうる事のと
誰よ待す。見すれづや。とく遼くたらうとぞ。會話とせむ。

第アタマとまがミー翁の憂を慰アシカシんとへや處アシカシい。おん翁ミハ今茲二十の年より弱アタマくアタマえアタマど女アシカシ子アシカシ殊アシカシ更易アシカシく二十とアシカシが歎アシカシ。森アシカシるうちに年アシカシの浪アシカシとアシカシて家アシカシの娘アシカシも。あくて嫁アシカシと君アシカシと織アシカシび縫アシカシん待アシカシけの候アシカシわアシカシ死アシカシうさアシカシりつよアシカシと即アシカシき。されば浦アシカシ瀬アシカシが一夜アシカシの齡アシカシ老アシカシぬとも何アシカシうアシカシみん夾衣アシカシ。うれは又親アシカシのうと念アシカシさるあアシカシよりよアシカシす。結アシカシうり婚アシカシ姻アシカシと後アシカシうれはゆアシカシ後アシカシや。強面アシカシへえも立アシカシど。おん翁ミへさこそこれアシカシとあり。わアシカシきくらアシカシかのうが人情アシカシをえあアシカシ取アシカシりのと恨アシカシむせんが。親アシカシは代アシカシり死アシカシをアシカシ辞アシカシせアシカシと。今里アシカシの妻アシカシあアシカシふあアシカシて人情アシカシ余アシカシ命アシカシも情アシカシを。又苦アシカシ死アシカシをアシカシせんふ只アシカシ身アシカシひとつのまアシカシた。かアシカシる解アシカシのうきアシカシとよアシカシれ。縁アシカシと時アシカシ節アシカシをうちアシカシりアシカシといアシカシきて、と注アシカシ流アシカシ。翁ミをつアシカシだアシカシい。

傷アシカシらぬと考アシカシりとこそ咬アシカシ候アシカシ。すアシカシや翁ミの處アシカシすアシカシよ。死アシカシぬ翁ミ考アシカシとらうとアシカシ。こうほよこの懐アシカシうらへ云アシカシうてふ妻アシカシとよアシカシりの死アシカシ婚姻アシカシせゆべ解アシカシとよアシカシ。と強面アシカシと死アシカシざれば半アシカシ七アシカシを。更アシカシひ股アシカシを言アシカシの聲アシカシも。勅學アシカシす立ちゆゆう。浩然アシカシふ前アシカシ面アシカシる。樹立アシカシの間アシカシ。燈燭アシカシの光アシカシ凶アシカシことさアシカシ生アシカシつ。前アシカシみへ滑アシカシの地アシカシ。りを。た右アシカシへ鞦アシカシうけアシカシ。と燭アシカシ裏アシカシふ途アシカシと照アシカシさせ。筑鳩アシカシの反檣アシカシ。是然アシカシと是アシカシ音アシカシ。とよアシカシど。とまアシカシも。初アシカシ夜アシカシも周アシカシ章アシカシ。辟隱アシカシまへとよアシカシど。只アシカシ一條アシカシの築鳩アシカシうり。檣アシカシうり外アシカシ。路アシカシゆ。とやせキドアシカシやせまアシカシと胸アシカシうち發アシカシびさアシカシじ母アシカシ。つアシカシせんとよアシカシりアシカシ。

浮名の端文

浩氣不前驅の女房。燭を拭て堂内する。男女と見て大が小驚き。且くちん先を駆めり。堂内不癖者の間ノ居はるう。と呼ふ。玉枕は前へも居のこゑ。ふ床几を立させ。曾太郎ととてよそせり。バ遙後方ふひけ。様松は阿と見て。袴の稜をとり。あぐら。おん前くまよけ玉枕は前言語正しく。如此との力のあくと。檢見よと宣くば曾太郎。禱て。燭を把て。堂の内。うる癖者を。ひとくくふ引出。燭を拭て。つくり。元きが。まへ。窓。この癖者へ外径すと。女児初花より一ヶ日。寝むれ。且怒り。禍とおりへぬだ自物主と蔑。剝。冠の面泥と塗る。潘安へ。仰。と罵り。声のとすく扇を揚て。打んとする。玉枕は前内

あて。渠禁めよ。と重を仰ふ曾太郎へ只。歎せしり。搔き。圓め。手巻ひ。上ふ。怒の涙。ふうかる。耳の怠ふ半七。も。初花も。枕。平伏て。置ぞ。迷る草の香。このす。消すと念ざる。とん。玉枕を。手。持。一。ひつ。力。下め。よう。彼の。どもと。志。ど。の。志。ぬ。も。り。ち。と。女。の。童。不。て。く。ゆ。燭。を。拭。そ。ぞれ。る。癖。者。面。を。あ。げ。よ。と。宣。ふ。ふ。う。身。禍。あく。大。地。ふ。額。著。動。そ。も。え。せ。所。そ。の。と。に。玉。枕。は。曾。太。郎。を。見。つ。く。う。ひ。正。五。九。月。の。己。の。日。み。缺。さ。で。詣。天。女。堂。へ。晝。の。や。ど。み。と。お。ひ。一。ふ。今。朝。よ。う。勞。る。ゆ。あ。う。て。づ。づ。く。ふ。暮。せ。く。が。矛。の。懈。も。物。体。う。く。死。裏。う。れ。が。甲。夜。の。間。ふ。あ。ん。と。お。ひ。立。う。ど。女。子。の。こ。べ。教。護。さ。ふ。曾。太。郎。を。お。て。來。し。へ。そ。の。癖。者。等。す。が。運。の。究。め。面。へ。よ。う。や。あ。げ。ば。と。の。雅。ま。と。く。召。せ。よ。初。花。こ。

す七日。今まくふとんとござんや。す七日中、宿ふ因縁とすりと
吹ふけへ百日みそびやもん。月額の長うありたる友松。浪
風よ吹曝きよる友松。うみへ倍を窓。又初花へ病著あつ
とて給車を断り。その日より。ソレと同せ。よひの外よ
あらうや。潜びてこく詣くる。やよ遠奔りの。口親令えよ。
見えあらう。ひときど。又曾太郎みよこそ。男女の密通へ。
事に禁斷とあらつも。法を犯し。そくあらまじたる所ども。
ソレにうかへ絶て。恨みへあらぬ。あらんあれど。す七日親
たるや。生死存亡定め。その身ゆ因縁とあらう。あらう。
附よ水を湧浪を越ごとへがよのをすむ。何たるもの。乱満
密会不承とやせん。不孝とやつて絶て。べらる本爲小あら。

初花も又あらぞ。外父の凋落を外す。女の方堂へ史が
院の。やまう。入と靈場と様。ある。その罪障は五百世。宿む御もん
どや。ゐる。尼。吹えあげ。彼木兩人。まよ。半え進ハ
一家滅亡し。曾太郎も又さうのあらじ。されば彼木がまよ。道を
ある親抱兄弟す。被ふ毛ざる鬼とあらん。软憐ても。有憐む
なし。抑。とくへがころ。山へ。月毎。かある。何の為ぞ。君もまらん
家子老黨。内よある。とある。青人。章の。まよ。でも。安々との
祈り。しりの。取。も多モ。ふくの。冥室をみて。稚。まよ。尼は。男女の
命を断ば。天女と恨み。まよ。ね。う。おと。脚。ん。主の。むすう。も
よ。彼木入院の。まよ。窓と奥と。運ひと執事。まよ。會せ。まよ
あらう。あらう。ひ詠。あらう。もの。ひ解。ふよう。且初花は



ちやくとう。す七ふ云早て。給事の年季満るべ。婚姻をう
結せんと。叔どもへ豫て。准儀をもうると。叔歎つることもあり
き。まご君の免許を得ざれば。丈婦ありとひひぎ。とも
脱毛取罪人ありばや。初花の稚をう。こゝへが使ふ。女の子
されば。罪定んと勿論る。半七へつふせん。彼もこゝへ任せん。叔
家の家へ曾太郎へ。何とぞよせ。と人と憐む理非明白。
かる婦人へ世よ多く。有ぐれにまでよ。天女也。仰ありとモ。廢うにて。
身と悔うむ。侄女聞よ。叔へちゆく面をくも。脱毛取罪
身の恥と。掩へふ。あきる袖の露。胸をいとく塞うて。裏うつぶ
ぬう。且して曾太郎へ。塵うち拂ひて。燈小置。拳と握て。肘を
張りし。淫奔力のどもうけまくし。叔凡て。傍る女房達と。

武士の女児のとみへあひし。或へ坊賈。浪人。或へ材長農。せ
うんどの。女四。孫も。あづけれど。或家ふ。給ふ。もれべ。礼美正く
上うなみの。と。みきら。物の善悪も。辨る。木綿井の譜代。
家の政事と奉る。親も。往て。憚よ。主と恐毛取大膽不敵。
み。年來の奉ふ。ふ。ほん。習ひ。うその愁うる。殊更ふ。また。
困居え。た。親の大難。その永も。配所。はあう。あづう。父の生
死の際。うる。けふ。至く。配所。を。脱出。女子。と。伴ふ。於。萬葉兆法。
す。や。その永と。八裂。ふ。創。ふ。ゐ。も。ても。駄の。恵厚。紙。歸ふ。うの
弓も。是と。だ。今ふ。も。あれ。まと。進。が。緯。の。卦。と。傳。も。ゆづ。が。勝
熟て。怒よ。遁う。つふ。る。うん。これ。も。う。そ。。駄の。名を。統。き。名を
繕ふ。と。四里。両翼。の。自。後。お。説。吹。を。る。の。繕ふ。と。理。縫。を。主。駄の。

仰へ重き身の悽み。すせりや奉難し。頭を擡思う。身
親の窮難。口がくえふ打忘も。女と紙伴ひゆうんや。あう
とも配所と越て。この山堂へ余レし科へ脱んとどるとも脱
り。初花の病を思ひ外文の厄難消除の為。竊ふこへ
詣るわたくしがとこれと達ぬ。これびとの罪也。すせりや壁く
やあん。といつて傍をくとが。初花も因を拭ひ。すせりふ
過り。初花の裁度と許さるべく。彼女の軽を吹ふせて。驗
くせりと。天女を祈念。ひい。誠を乞て。ちのづくら。舟中過
寄り。そのうちかひをやうさんと。こへ詣る。おと
忘る。眼ふ声も失く。つぶる口定め。罪輕くとも重くとも
賞罰の恩の隨意。其の汝によ同まんや。縱密金のせんとく
ぬと。許さり。ひよ初花の女子の。もの。もこれより輕し。

只すが首紙をて助け。べくらの女と紙と。せも黒毛曾太郎
血を。眼ふ声も失く。つぶる口定め。罪輕くとも重くとも
賞罰の恩の隨意。其の汝によ同まんや。縱密金のせんとく
ぬと。柳下惠。あくせば。ひよ。耳聽さる。密支淫婦ハ輕重乃
沙汰。おど。覺期せよ。といふ罵り。肩衣の脇引延。取を致り。
地ふと著君夫人へあじある。頼く。罪人あは。曾太郎。も
立地。首紙を。あく。て後。よの。教と。教ふ報を。をもん。偏よ。許させ
まう。と。遮袋紙。口もらふ。う。母生死を。かせ。ど。う。へ。慈悲と
玉枕。前。らひく。口も。掉り。の。と。許。一。か。と。最。事。き
罪人。その場を。す。せ。と。刑。も。と。続。井の家風。う。す。へ。婦女子
されども。これ。よく。あ。う。と。も。天女の山堂。逝く。血。様。ま。

その崇脱きぐさりん。よりてるふ。その罪人。おのそがすくふ。おの
ばれふ。紫染浸せん。如此するところへ家法を破るべ。天女の山堂
も稼をふ至るべ。この有ゆてては彼のどもハ半死である
むろん。死とんべる。ある。す七初花が魂この代あふ漂んと見
よくうけり。汝ホ真か淫奔うと。犯と。ソス誠より。則て
踰るのすと。と憐へきこと。主じよこまく。憐むよ。
皇天りで。憐さん。一日の恥辱を忍び。魏遠く大抵と離き。
駕よ代として。風流士の宝刀の往方を。とび称めりて進フ。スリバ。
忠孝共す全うん。そのとひよこそ。舊惡の浮名を雪る。池らみ
魂魄再びえまく。駕の箭履子の因とて。とくらふと月と日と
百日千日累あるとも。風流士と索生と。暇ハ絶てある。とくらみ

汝ホ法を犯して。代水ふ沈うれ。たすひ自在小天外を飛従。寄方の
在所とあらわす。生きてすくす。幸すが。又まえ進が。りと。
ともかくも君を禮めあつて。羽毛の令へたり。とびべ。とくらふと。
彼ホが死して後の一月。一扇の向向。とくらふと。ある。告る
あらせよ衆婢。こうらふと。と謹よ。サク。釋も。傳の。索。うつ
る。母と。綺る。恩義。今。面。折。うつ。不拘よ。あらふ。
す七初花。之がまうと。曾を郎へ只練貫の。髪斗。月の袖ふ。感涙を。
累難。之が列席。する。女房達。よ女の童。なへ。おまつり。共。坐。み
袂と濡。とくら。且して。玉枕。に前。女の童。ふ齋。とくら。服糸物。と聞。そ
蝶松。よ対。せり。よ曾を郎。例の。じて。辨財天。進。せん。と。齋。し
たる。白銀十枚。こよ。あら。も。罪人。よ觸。され。ば。こう。骨の。糸物を

止めり。さるごとたへ。この自恨の様もす。彼木と水中へ沈んよ。壓石
ゑりてかす。べからば。この自恨の究竟の壓石。両人共袂納を
させよ。十万億土。遙き前途死て。冥土の路費とす。おとぎのぞ。
と外く。法施の銀を曾ち郎ふ。どらつ。又宣へせ。彼木既に罪
定まれば死しゆりのふ。異う。じん。と。おとぎのぞ。永く生を
攀とうや。云号する。嬬夫の縁。と。今生ふ縁。未未孤被の
餓鬼と。うりあん。死後と。ば今許を。婚姻の益せ。二九呂乃
淨土。生せん。のれ。酒よ。櫻へ。親も許して。ゆき。と。仰
曾太郎ハ。面と背けて。鼻うち。這奴。おつる月と日の下。小
生。生きて。かず。高恩恩惠を受ける。推辞せん。物作は。
實加よ。生る罪人。う。上。夜。おとせ。腰婢。龍田吉野。

江で。女のかみの淨。手。笄。柄杖。長柄副柄。やく。嬬夫。絆
水觴。言祝せ。ねど。娘。の。松風の音。後。深。玉枕。これと離れて
現。つる。死。婦。や。て。遂。で。弘果。を。す。よ。曾太郎。長
劍。締。て。更。繩。う。この罪人。あ。り。う。す。の。彼初の巻。う。沈。ふ
被。よ。こ。よ。り。え。ゆ。私形の巖。ふ。打中骨。と。碎。が。お。く。か。ち。よ。り。
舟の見當。と。た。ぐ。と。仰。も。の。彼舟。よ。な。せ。よ。と。タ。い。と。曉。う。つ。
立。かる。歌の。負。これ。え。り。と。初。花。ひ。うち。仰。ざ。ま。セ。も。り。多。草。
舟を。掌。へ。主。と。親。と。ふ。辭。別。物。ひ。ま。紙。ひ。が。え。よ。磐。棹。舟。の。流。
籬。襟。上。左。右。よ。搔。廻。む。曾太郎。あ。ゆ。ふ。巻。う。破。と。衝。落。と。多。
底。う。ぬ。船。の。中。自。恨。さ。え。よ。投。入。き。て。浪。の。き。う。推。流。せ。ば。玉枕。巻。前。
お。ん。声。あ。く。罪。人。ホ。が。死。嚴。浮。あ。ご。再。び。巻。へ。う。る。こ。ゆ。ん。曾太郎。へ

この夜の中ふ水門を開いて下狭川へ流しゆれり。いざはらんと徐
やふ。床几と立せりよみぞ。銀燭画燭續をえて。手すく打。燈火ふ
舟く駕の女房うち。前驅後役も嬌やふ。立そろびゆく夜の花
中ふ強顔蝶松へ易ね操ふ玉葉棄る。浮世の轍や行極の櫛も橋
も隔ゆど。闇の善惡うな船の中。目送るす七翁花が火光同營ふ
ふ。絶え繋ぬ舟とやく水の往方へ更よ定めうねて。秋の夜長
歎くよぶべ。

(村田)

一

白夢南柯後記卷之四



是篇とゞ脚色許多う。姑く算
あうれども近人巧を絶つてむべ。年の暮りんてく嘆ふく。
齋で今うの四巻を先みゆ。あきより下。笠松平然が事。夏と
平右郎母子のと。刀屋因樹が貪姫毒計。半七お姫が難難
危窮。槐姫の生死存亡。四五六全みぐ善惡邪正。折花比丘尼
清黒の縁故。陶五郎が陰徳。赤根氏お通祈兩の歌を詠じる。
小野小町よ比らうる。順啓主従大江家ふ譲りく。晴賢
退治の出陣やで。つたうに後悔四巻みんえく。前件と
覆えの後。遠くらばて袖を呈さず。冀くハ賜顧の看官
前媛の編を披圖よく。高評となまく。

書賈

木蘭堂平吉鈎自

飯台曲亭馬琴戲作



葛飾北齋辰政畫



做書

嶋岡節亭

鈴木武筍 剥刷

朝倉伊八

木村加兵衛

三七

全傳南柯夢

馬琴著

全六冊

三七全傳
第二編

占夢南柯後記

馬琴著

北齋画

同後

性第三編四冊

右二同

前帙

句

殿

實

々

記

馬琴著

豈廣画

後編五

ゆきひる あま

ゆきひる あま

馬琴著

春亭画

全五冊

朝夷嶋めぐらの記 曲亭主人編述

未壬申冬刊行

あみ草紙も藻食右大臣とまるくとせりとん。朝夷三郎義秀。
剛剣ふして諸人どろく。宮中ふ坐入せらる。達保乃たド先
和田合戦のとれ。秀秀ひく必死と脱毛。由井濱より
艦く。諸島を歷拵。遂よ不嗣於子園よ至て武勇と
あくへせりと。并よ前將軍頼家卿。伊豆の終善寺ア
自殺の顛末ととありれよ綴りす。凡上中下篇。一
六冊を全本とぞ。上篇六冊。未申の冬うり出でる。

馬琴画賛あゆぎ

江戸神田通鍋町 柏屋半藏
大坂心齋 橋筋 河内屋太助 方有
えふとこがすてひざのれどきのまれりまもくきめ幸
わぬ宿えへり作下ゆようちうみちうみ

文化九年壬申春正月
良節發販 大吉利市

江戸橋四日市 松本平久

深川森下町 捷本捷右衛門

江戸書賈

捷本

